

仕事 01 CASE

# 技術革新と多彩な塗装法で製品を保護し美しさを高める

製造技術 小山 貴斗さん (21歳)

加美電子工業株式会社 (加美町)

## 量産品の塗装条件の設定を勉強中 現場作業で微妙な変化を感じ取る

ある日の昼下がり。加美電子工業株式会社の本社工場で、小山貴斗さんは製品の塗装の仕上がりを厳しい表情でチェックしていた。表面にキズや汚れが無いか、塗りムラが無いかなどを丁寧に確かめる。艶やかな漆黒の鏡面塗装が、製品全体に施されていることを見届けると、表情が和らいだ。「色調や光沢など塗り加減の良し悪しは、専用の機械で検査するほか、人の目でも確かめます。この製品は、私が条件出しを行った塗料で塗装したものです。思い通りに仕上げることができてホッとしています」と小山さんは話した。

「条件出し」とは、量産する製品を定められた規格通りに作るため、機械の設定条件などを微調整すること。塗装における条件出しは、塗料の配合や噴射量、噴射時間などを設定することである。

「同じ塗装をする場合でも、その日の温度や湿度、一度に製造するロット数などによって、適正な条件が微妙に異なります。こうしたちょっとした違いを覚えるため、毎日現場で勉強しています」

入社3年目の小山さんは、今年の5月に製造技術部に異動したばかり。製品の試作や量産前の技術的な準備を担当する同部にとって、量産品塗装条件の設定は、重要な業務の一つだ。小山さんは現在、量産品の塗装が行われている現場で、実際の業務に

携わりながら、条件出しをはじめとした様々な技術と知識を身に付けている。

## 表面処理加工のプロフェッショナル 新技術の開発で世界の信頼を獲得

同社は、電子部品や機械部品、光学部品などの表面処理加工を手掛けている。塗料でプラスチックや金属に着色する「塗装」、インキなどでフィルムに画像や文字を転写する「印刷」、塗装した製品の表面を強い光を照射して文字や記号などを刻印する「レーザー加工」に関する高い技術力で、自動車の内装品や携帯電話、デジタルカメラなどの幅広いメーカーのニーズに応える。また、同社では新技術の開発や環境負荷の低減などに積極的に取り組み、VOC（揮発性有機化合物）の添加が極端に少ない水系塗装を行う専用工場は、ヨーロッパの大手自動車メーカーの認定工場の認可を受けている。世界初の新技術「超臨界二酸化炭素塗装」は、希釈溶剤の代わりに炭酸ガスを使用することでVOCの大幅な低減を実現させた。こうした技術力が評価され、2009年に宮城県の「富県宮城グランプリ」と経済産業省の「ものづくり日本大賞特別賞」を受賞した。

小山さんは、同社がこれまで培ってきた様々な塗装技術を学びながら、あらためて技術の高さを目の当たりにしているという。「塗装に使う特殊な装置や塗装ロボットなど設備の充実をはじめ、作業者の判断力の

レベルの高さに驚きました。現場作業を通じて、こうしてお客様からの信頼が守られているんだと実感しています」と小山さんは話した。

## 農業高校からものづくりの道へ 入社3年目から製造技術に挑戦

加美農業高等学校の農業科出身の小山さん。実家が米やりんごなどを栽培する農家ということもあり、農業高校への進学は自然な流れだった。

ゆくゆくは農業を継ぐことになるかもしれないが、その前に一度、社会経験を積んでおきたい。そう考え、地元加美町に

企業情報

加美電子工業株式会社

所在地 / 加美郡加美町字下野目雷北6  
TEL 0229-67-3110  
<https://www.kamidenshi.com/>

代表取締役社長 / 早坂 宜晃

資本金 / 4,800万円

設立 / 1970年6月

従業員数 / 112人 (2019年8月現在)

事業内容 / 電子・機械・光学部品などの表面処理加工 等

一、「心」と「技術」を磨き  
一、信頼の構築を計り  
一、共に生きる喜びを



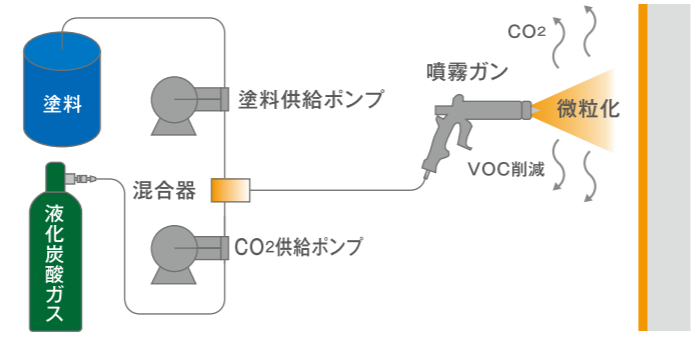
## みやぎ発の新技術「超臨界二酸化炭素塗装」

加美電子工業株式会社は、国立研究開発法人産業技術総合研究所東北センター（仙台市）と宮城県産業技術総合センター（同）と共同で、超臨界状態の二酸化炭素を活用した新しい塗装技術の実用化に成功しました。

### VOCの発生量を削減

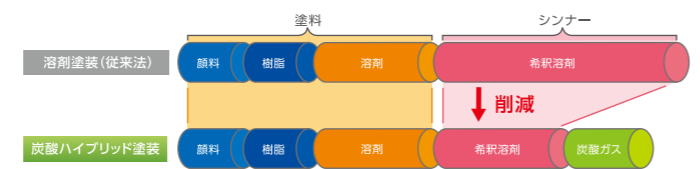
塗料の希釈に使用するシンナーなどの有機溶剤は、空気中に拡散すると公害など健康被害を引き起こす恐れがあるVOC（揮発性有機化合物）として知られています。

超臨界状態の二酸化炭素を塗料に混合することで、シンナーと同様の希釈効果が得られると同時にVOC発生を大幅に削減することが可能になりました。



### コスト面でも優秀

同塗装法は、従来の方法と比べて有機溶剤の削減や塗着効率\*アップによるコストダウンが見込めるほか、既存の塗装ラインのまま導入できるため、設備投資に必要な費用も抑えることができます。



\*塗装に使用した塗料の量と、実際に対象物に塗装された塗料の比率のこと



塗装後の製品の仕上がりを確認する小山貴斗さん





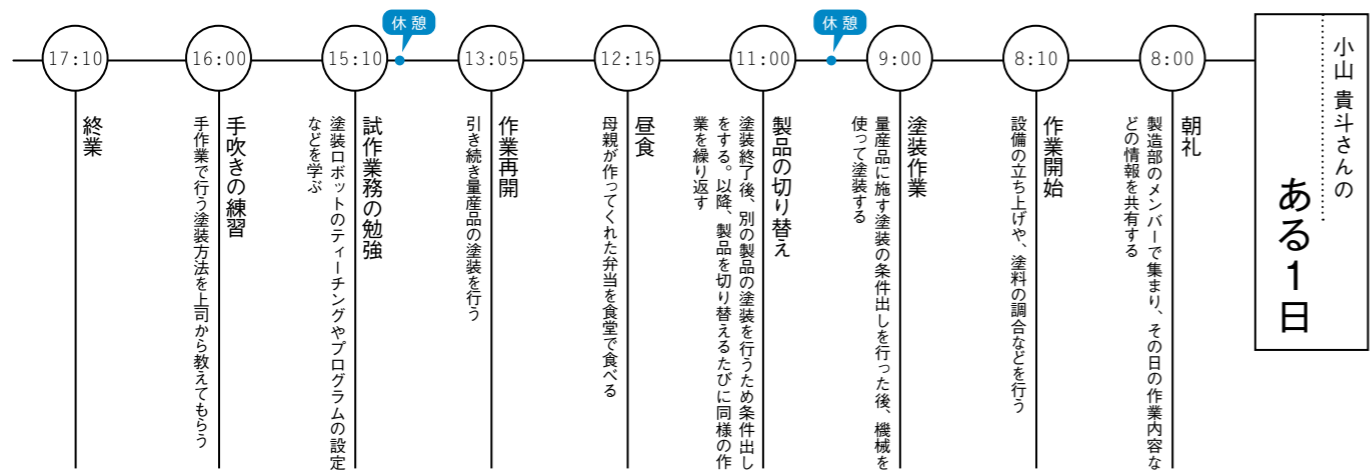
エアガンを使って塗装前の製品のゴミや汚れなどを取り除く



塗装する製品をセットし、自動塗装を行う装置に流す



製品ごとに決められたレンジと、条件出しの結果をもとにその日に使う塗料を調合する



手吹き作業の練習。スプレーガンを使って直接塗装を施す



製造ラインの担当者と作業の進み具合などについて情報を共有する



コントローラーを操作して塗装ロボットのティーチングを行う

## 上司に聞く



製造技術課課長 小山 圭太さん

### 仕事と向き合う真摯な態度が光る「期待の星」 新しいステージでも積極性を生かしてほしい

就業規則をしつかり守り、報・連・相も怠らない、身だしなみもきちんとしている小山君の日頃の立ち居振る舞いには、いつも感心させられてばかりです。日々の業務に対しても真摯に取り組む姿勢は、ものづくりには欠かせない資質だと思っています。製品は絶対にウソをつきません。小山君がひたむきに取り組んだ結果は形として残り、お客様や社内の好評価につながると思っているので、引き続き頑張ってください。

社会的で上司や先輩に対しても積極的に自分の意見を言うことができるところは、大きな強みとなるはずです。これから経験する試作業務でも、その積極性を生かして成長につなげてくれると期待しています。

春から製造技術部に異動し、新たなチャレンジが始まったばかりです。失敗を恐れることなく、多くの経験を積んでほしいと思っています。

ある同社への就職を決めた小山さんは、「実家で建物のペンキ塗りを手伝ったことがあったこと、クルマの内装品を作っている仕事に興味を持ったことが理由です」と語った。

入社1年目、製造部に配属された小山さんは、自動塗装ラインで機械が自動で塗装を施す様子を監視する仕事を任された。最初は単純な作業に思ったが、多種多様な製品を扱う同社では、塗装する製品を切り替えるたびに塗料や材料のセットや機械の操作を行うため、想像以上に大変な仕事だった。

「工程の手順や装置の仕組みなど、初めて見聞きすることはかなりでした」と振り返る小山さんは、上司や先輩から教えてもらったことを記したメモを、繰り返し読んで頭に叩き込んだ。

入社から2年が経ち、ある程度自分の判断で仕事ができるようになった頃、上司から製造技術部への異動の打診を受けた。「しばらくは製造部で仕事を覚えていくのかなと漠然と思っていたので、異動の話聞いて本当にビックリしました」

### 手作業からロボット操作まで 様々な知識を吸収し成長の糧に！

製品の塗装には、製品を保護するほか、「見た目」を美しくして付加価値を高める役割がある。自動車の内装品や携帯電話の外装などの製品を手掛ける同社にとって、塗装の美しさは特に重視される。それだけに、小山さんが現在挑戦している塗装の条件出しは、製品の品質の良し悪しを決める重要な業務だと言える。

「条件出しを失敗すると、最悪の場合、全ての製品が使えないものにならなくなってしまいます。条件出しは、経験の積み重ねによる適切な判断力が求められることから、再び塗装ラインで勉強しています」と小山さん。コントローラーを使って塗装ロボットの操作し、ロボットの動きを記憶させる「ティーチング」と呼ばれる作業や、作業者がスプレーガンを使って直接塗装を施す「手吹き」の作業など様々な塗装技術を学んでいる。かつて担当していた自動塗装ラインとは扱う機械や必要な知識が異なるため、基本からのスタートとなった。

「製品の試作から量産の立ち上げまで、製造技術部の仕事は多岐にわたるため、幅広い知識が必要です。みなさんからどんなことでも任されるような技術者になるため、日々の業務に精一杯取り組んでいきたいです」と小山さんは力強く語る。今を「下積みの時」と位置づけ、将来への飛躍に向けたチャレンジを続ける。

**未来のACEへ  
先輩からのアドバイス**

上司や先輩から教えたもらったことは、メモを取る習慣を身に付けてください。また、メモを取りながら先輩が作業する様子や行動を観察することも大切です。説明やアドバイスのほかにも、学ぶべき情報はたくさんあります。言われたことだけを覚えるのではなく、良いところを真似して、知識と技術の差を少しでも縮められるように頑張ってください。

入社したばかりは、みんな初心者です。だから、高校でものづくりについて学んでいない人でも、挽回することは十分可能です。大切なことは学んだ知識よりも学ぶ意識です。ある程度仕事を覚えて、上司から一つの仕事を任せられた瞬間、うれしい気持ちになりますし、「今まで頑張ってたが良かったな」とやりがいにもつながります。その努力の成果が形として残るところがものづくりの魅力だと思えます！



加美町にある同社の本社工場。電子部品組立やプラスチック成形からスタートした同社は、事業内容が表面処理加工に移ったも現在も「電子」の名前を残している。2019年に創業50周年を迎えた

## CASE 01 仕事図鑑

### 製品を保護し美しさを高める 技術革新と多彩な塗装法

製造技術  
小山 貴斗さん (21歳)  
加美電子工業株式会社 (加美町)



## ハンドメイドによる熟練技が強み 雪ヶ谷精密工業株式会社の治療椅子製造

同社では、部品加工をはじめ各工程を担当する熟練の技術者によって、高性能・高品質の医療用治療椅子が作られています。

- 1 塗装部門では、2段階の塗装を行っている。そうすることで、滑らかなフォルムと清潔感あふれる質感が生まれる
- 2 電気配線部門では、内蔵する電気機器をつなぐ配線の加工などを行っている。医療現場のニーズに応える高度な機能を支える
- 3 組立部門では、各工程で作上げた部品を組み立て完成品にする。患者に心地良く座ってもらうために、微調整を繰り返す



「ほとんどの製品がオーダーメイド品で、同時に進行で作業しています」と話した。医療機器は人の命に関わるものであることから、製造業者に対する高い安全性と品質管理が要求される。そのため、医療機器を製造するための認可・登録制度が設けられていて、この登録がないと医療機器を取り扱うことができないことが法律で定められている。「一般医療機器製造業」の許可を持つ同社は、創業から60年近く連続と蓄積してきたノウハウをもとに、医療現場のニーズに応えている。

「高い加工精度が要求される部品では、ゆがみが原因で、はめ合わせがうまくいかず、組立工程の担当者から再度加工を頼まれることがあります。微調整を繰り返して、ようやく取り付けることができる部品もあるんです」と吉田さん。たとえ小さな部品一つであっても、妥協は決して許されない。吉田さんは、地元にある気仙沼向洋高等学校の機械技術科に進学した。「ものづく

りの知識や技術は、就職に結びつきやすいと思っただけです」と理由を語った。高校では、初めて学んだ機械加工に苦戦したが、技術が身に付くにつれてその魅力に引かれていったという。「職場体験で訪問した企業で実際にマシンを触らせていただいたり、加工した製品を見せていただいたりしたことが、ものづくり企業に就職する決め手となりました」と振り返る吉田さん。先生の勧めもあって、高校を卒業後に同社に就職した。

### 企業情報

雪ヶ谷精密工業株式会社  
所在地 気仙沼市赤岩長柴 8-1  
TEL 0226-23-1085  
http://www.yukigaya-seimitsu.com/  
代表取締役社長 菊田 恵子  
資本金 2,100万円  
設立 1960年6月  
従業員数 21人(2019年8月現在)  
事業内容 医療機器製造、機械設計、切削加工、部品塗装  
企業理念 至誠をもって製造に取り組み 製品から信用を得る



人々の健康を願って  
一つ一つの作業に心を込める

大きなノギスを使って治療椅子の土台に使われる部品の寸法を確認する吉田凌さん

## CASE 02 仕事 鑑

# 医療現場の声に応える 高度な技術と一貫生産体制

製造 吉田凌さん(21歳)  
雪ヶ谷精密工業株式会社(気仙沼市)

複数の工作機械を駆使して  
金属から様々な部品を作り出す

吉田凌さんは、大型の工作機械で加工を終えたばかりの直径60センチほどの円盤状の金属部品を抱えながら取り出すと、大きなノギスを手に取り、真剣な表情で寸法の確認を始めた。

「この部品は、耳鼻科用の治療椅子の土台に使われます。こうして加工を終えた後に、図面通りに加工できているかどうか、作業者が一つ一つチェックしています」と吉田さんは教えてくれた。

雪ヶ谷精密工業株式会社は、医療用治療椅子などの医療用機器を製造している。設計から部品の加工、塗装、組立までカバーする一貫生産と高い技術力を強みに、高品質な製品を提供している。主力製品である耳鼻科用の治療椅子は、国内シェア70%を誇り、全国にある多くの耳鼻科の診療室で同社が手掛けた治療椅子が使われているという。

吉田さんは、工作機械を使って金属製の材料から部品を作るマシンオペレーターだ。工具の移動や速度などのデータをあらかじめ入力し、コンピュータによって自動で制御する「NC加工機」を使って作業を行っている。

「治療椅子の土台に使われている大きなものから、数センチくらいの小さなものまで、いろいろな部品を加工しています。作る部品によって複数のNC加工機を使い分





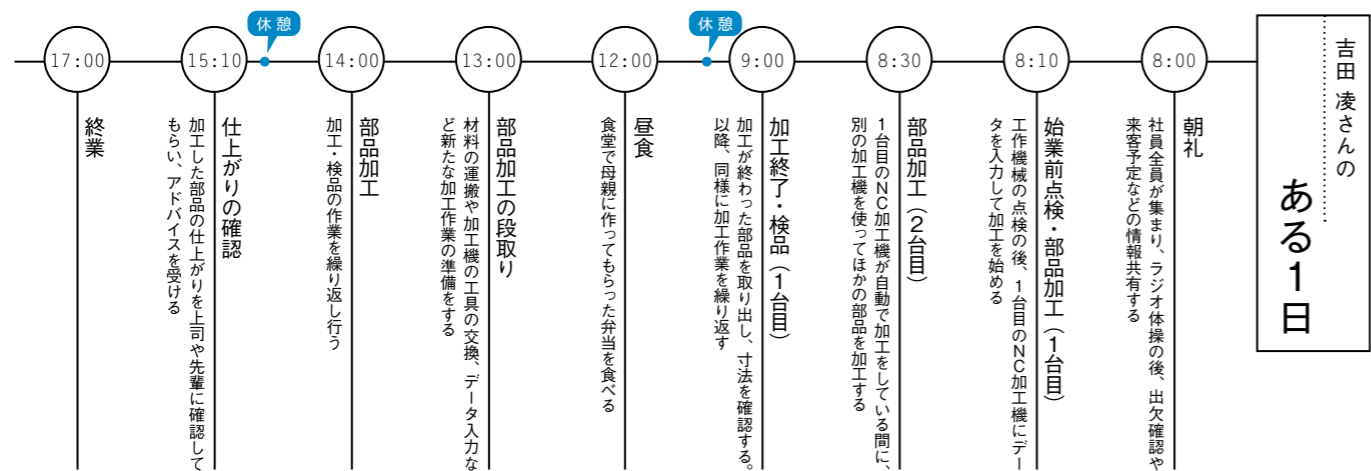
加工後の部品の検品は、加工を担当したマシンオペレーターが入念に行う



大型のNC加工機から加工を終えた部品を取り出す



操作パネルにデータを入力してNC加工機を設定する



他部門の上司と打ち合わせ。部門同士の連携が、同社の良い製品づくりを支えている



加工機にオイルを追加する。日頃のメンテナンスもオペレーターの大切な仕事



別の部品を加工する準備のため、資材置き場から材料を運搬する

**未来のACEへ  
先輩からの  
アドバイス**

私は、就職先が決まった後に、社名にある「精密」という文字から、「大変な仕事なのかな……」と心配に思ったことを覚えています。でも、高度な技術や具体的な仕事の内容は、就職してから学ぶことができるので、社会人になる前から心配する必要はありませんでした。

ただし、基本的な知識や技術だけでなく、あいさつ、服装、言葉遣いなども、学校で学ぶことができるので、こうした社会人にとって最低限のことを就職前にどれだけ身に付けることができるかが、仕事や会社になく慣れるコツなのかなと思います。

興味がある仕事や働いてみたい企業をできるだけ多く見つけることは重要なことですが、一人で探すだけでは限界があります。時には先生や両親、友だちや先輩などたくさんの人のアドバイスを聞いて、「一緒に決めていく」という気持ちで臨むことが大切です。



## 上司に聞く



製造部  
旋盤加工係長  
小松 覚さん

### 実直に仕事と向き合う姿勢を評価 若い人材の一人として会社を支えてほしい

入社3年目ということもあり、分からないことがたくさんある中、どんなことでも素直に上司や先輩にアドバイスを求め、教えてもらったことをすぐに行動に移すことができる。そんな吉田君の仕事に対するひたむきさは、素晴らしいと思っています。これからもマイペースで技術や知識を磨いてほしいですね。

日頃のあいさつや時間厳守など、仕事上のルールを守ろうと努力する姿勢は見られていますが、この点についてはもうひと頑張り。厳格な加工精度が求められる医療機器製造では、日頃の態度が製品の品質にも影響を及ぼします。引き続き努力してほしいと思います。

弊社ではここ数年、吉田君を含めた若い社員が増えていきます。同年代の先輩、同僚とコミュニケーションを上手に図り、一緒に会社を盛り立ててくれることを期待しています。

汎用加工機を担当した。汎用加工機とは、作業者がハンドルを回すことなどによって操作する工作機械のこと。吉田さんにとって使い慣れたマシンではあったが、高校とは違うプロの現場の勝手の違いに戸惑ったという。

「求められる寸法の精度の厳しさは桁違いでした。技術面でも分からないことがたくさんあったので、上司や先輩に教えていただきながら少しずつ仕事を覚えていきました」

3カ月間ほど経ったある日、NC加工機

を使って加工をすることになった吉田さん。手動で作業を行う汎用加工機と違い、NC加工機はコンピュータが制御する。また、加工機の扉を閉めて作業を行うため、中の様子を確認することが難しい。

「初めて扱うマシンだったことに加え、加工の様子を詳しく観察することができないので、イメージをつかむのにとっても苦労しました」と話す吉田さん。最初の頃はミスが続き、部品として使い物にならないものを作ってしまうこともあった。

失敗を引きずってはいけません。吉田さんは話した。

自分自身で納得のいくような加工ができるようになったのは去年の秋を過ぎた頃から。技術が身に付くにつれて、任せられる部品の種類や、扱うNC加工機の数も自然と増えていった。

「マシンの基本的な操作やクセ、季節による加工精度の変化など、オペレーターが気になったことを、マシンごとにファイルにまとめたメモがとても役に立ちました」と吉田さんは話した。

診療椅子の土台部品を加工するNC加工機は、同社で最も大きな加工機であり、吉田さんにとって、あこがれていたマシンだ。そんな特別なマシンを扱うことができる幸せをかみしめながら部品の加工と向き合う。そして、仕上がった部品がトラブルなく組み立てられた時、安心感とやりがいを抱くことができるという。

将来、自らの手で動かしてみたいマシンや作ってみたい部品はたくさんある。そのために必要な技術や知識を一つずつ着実に身に付け、「何でもできるようなオペレーターになりたい」と吉田さんは抱負を語った。

### 成長とともに広がる仕事の幅 オールラウンドなオペレーターを志す

## CASE 02 仕事図鑑

### 高度な技術と一貫生産体制で 医療現場の声に応えるものづくり

製造  
吉田 凌さん (21歳)  
雷ヶ谷精密工業株式会社 (気仙沼市)



「ここがACEポイント！」

吉田さんは、複数の工作機械を同時に扱いながら部品の加工を行っている。同時作業をスムーズに進めるためには、事前の段取りを適切に行うことが重要だ。

「身だしなみに注意したり、整理整頓を心掛けたりと、日常の基本的な態度にも気を配っています」と話す吉田さん。その真面目な姿勢が、医療機器製造に求められる高品質なものづくりに生かされている。



企業情報

株式会社北村製作所

所在地 / 本社：東京都墨田区太平 4-13-4  
宮城工場：亶理郡山元町坂元字原ノ町 5  
TEL：0223-37-1151  
https://www.jknc.co.jp/

代表取締役 / 稲葉 弘幸  
資本金 / 5,000万円  
設立 / 1893年  
従業員数 / 113人(2019年8月現在)  
事業内容 / 精密工作機械の製造及び販売  
企業理念 / 1. ものづくりで社会に貢献  
2. ものづくりでひとづくり



仕事 図鑑 CASE 03

# 長年培われた伝統技術でものづくりを支える

機械設計  
遠藤 日出喜さん(29歳)  
株式会社北村製作所 宮城工場 (山元町)

機械加工に必要な不可欠な  
NC工作機械の設計を担う

回転する材料に工具を当てて目的の形状に削る「旋盤」は、機械加工に用いられるポピュラーな工作機械だ。

株式会社北村製作所は、コンピュータで制御するNC旋盤などを手掛ける工作機械メーカーで、生産拠点を山元町内に持つ。創業以来から受け継がれてきた伝統技術により、多種多様な生産品目に対応した精密工作機械をオーダーメイドで提供。自動車や半導体、宇宙航空関連など幅広い分野のメーカーとの取引があり、欧米やアジアなどにも輸出している。



変わらぬ「旋盤愛」を貫き  
お客様の声をカタチにする

「製品の高性能化、低コスト化が求められる今、工作機械にも高度化が求められています。そのため、生産能力や安全性、省電力など、お客様のあらゆる要望に応える製品を届けられるよう努力しています」

こう話すのは、製品の機械設計を担当する遠藤日出喜さん。コンピュータを使った設計システム(CAD)を使って、機構部の設計を行っている。

取引先からの要望をもとに、同社の標準機にオプションなどを取り入れた仕様書を作成。その内容から設計図や部品図を作成して工作機械が作られる。

「予算の範囲内でより確実なものづくりを実現させるため、私たちのアイデアをお

客様に提案することもあるんです」と遠藤さんは話した。

高校時代にのめり込んだ旋盤の世界  
知識と技能を磨くため能開大に進学

福島県出身の遠藤さんは、地元の工業高校の機械科でものづくりを学んだ。

「旋盤に興味を持ち、高校生ものづくりコンテストにも出場しました。精度を追求する緊張感が魅力でした」と話す。

旋盤を理論的に学び、より高い技術身に付けるため、高校卒業後に東北職業能力開発大学校(栗原市)に進学した。在学中に普通旋盤2級の技能検定に合格。若年者

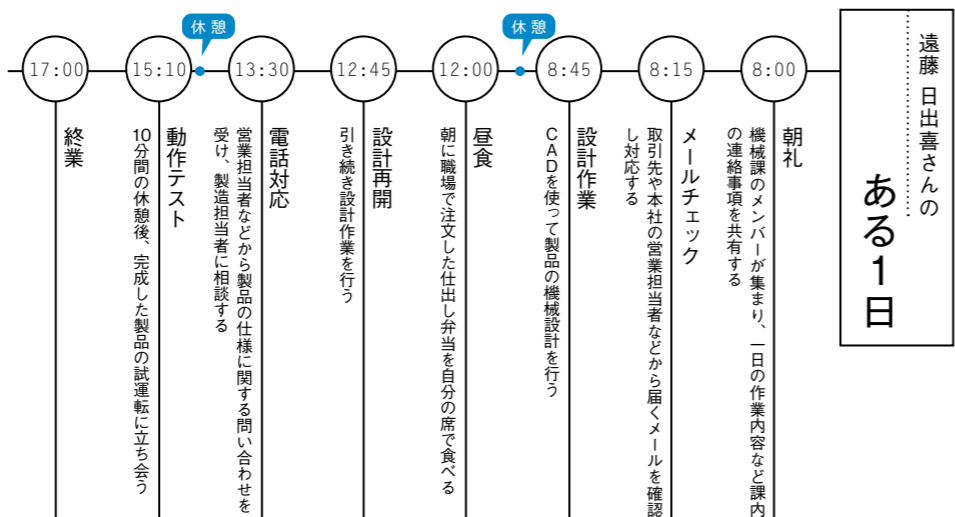
ものづくり競技大会では、全国大会で敢闘賞を受賞した。充実した「旋盤漬け」の日々を送った遠藤さんにとって、旋盤メーカーへの就職は、理想の展開だった。

初めの2年間は、先輩のもとで機械設計のノウハウを学び、入社3年目になると一人で任される仕事が増えていったという。

「自分の考えた仕組みが図面に反映され、製品として形になる。動作テストで機械が実際に動いて、希望通りの加工ができた時は、とてもうれしいですね」

入社8年目の今では、設計のほか取引先とのやり取りや製造現場での打合せなど、幅広い業務に携わっている。

「これからも、お客様が求める旋盤を世に送り出していきたいです」と遠藤さんは晴れやかな表情で語った。



製造現場で製品に取り付ける前の部品をチェックする



製造担当者と打ち合わせ。製品の仕様や作業の進み具合などについて話し合う



作成した設計図や部品図から製造現場に申し送る前にミーティングを行う



上司から機械設計に関するアドバイスを受ける



## 未来のACEへ 先輩からの アドバイス

私が東北能開大に進学した理由は、工業高校で学んだ旋盤の知識や技能をもっと深めることができると思ったからです。特に講義や実習、研究などを通して、自分なりの自由な発想でものづくりを学ぶことができたことは、とても良かったと思っています。ものづくり企業に就職する前の選択肢の一つとして、能開大への進学をおススメします。

機械設計の仕事には、機械の仕組みや加工に関する知識だけではなく、コストを計算するための数学、外国製の機械部品の説明書を読むための英語など様々な知識が必要になります。若いうちは、やりたいことには力を入れても、興味がないことにはおろそかになりがちです。みなさんには、広く浅くでも構わないので、高校生のうちから幅広い分野に目を向けてみてほしいと思っています。

1 組み立て中のNC旋盤の状態をチェックする遠藤日出喜さん

2 CADを使って機械設計を行う。制御部分の設計(電気設計)は、ほかの設計者が担当する

3 同社製の小型精密CNC旋盤「KNC-20G」。CNC(Computer Numerical Control)とは、工具の移動距離や速度などをコンピュータで数値制御するという意味。ものづくり業界では、馴染みのある「NC」と呼ばれることが多い





企業情報

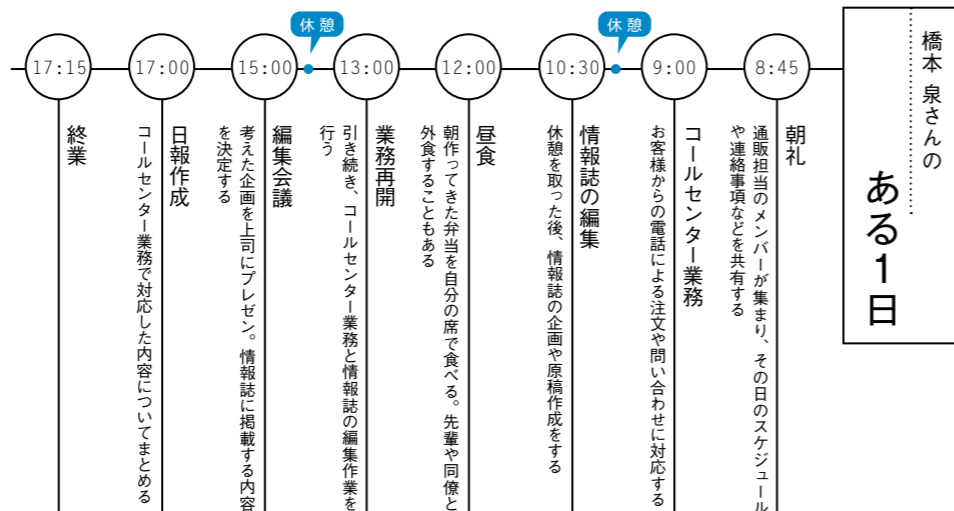
ゼライス株式会社

所在地 / 多賀城市栄4-4-1  
TEL: 022-361-8821  
https://www.jellice.com/

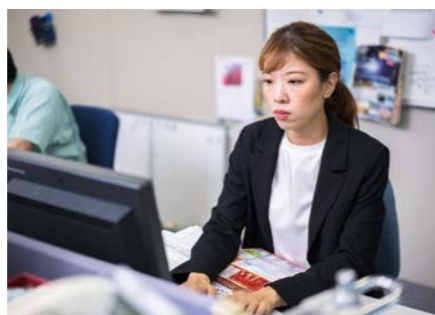
代表取締役社長 / 稲井 謙一  
資本金 / 1億円  
設立 / 1941年10月  
従業員数 / 93人(2019年8月現在)  
事業内容 / ゼライス、食用・医薬用・工業用各種ゼラチン、コラーゲンペプチド、カラギーナン製剤の製造および販売、自社開発商品の通信販売  
経営理念 / 我が社は常に時代の最先端に位置する企業であるべきであり、そして、私共はすべての人々の幸せづくりに貢献出来ることを誇りとする集団である。



インタビューや探訪レポートの写真も橋本さんが撮影する



電話で取材交渉を行う。誌面に使う写真の提供を、市町村の観光担当者に依頼することもある



取材した内容をもとにパソコンを使って原稿にまとめる



情報誌の編集会議を行う。製造や開発担当の関係者から意見を求める



未来のACEへ  
先輩からの  
アドバイス

情報誌の取材で製品開発や製造など、ものづくりに関わる方から話を聞くと、みなさん目をキラキラさせて熱い思いを語ってくれます。そのたびに、ものづくりは魅力的な仕事であると感じています。

私のように製品を作る知識や技術がなくても、営業や情報発信などいろいろな形でもものづくりに関わることが出来ます。製品や部品をたくさんの方が誇りをもって協力して作っている姿は感動的です。一人でも多くの人がものづくりに興味を持ってくれたらうれしいです。

振り返れば、中学生の時に滋賀県まで取材に行った経験や、大学生の時のフィールドワークの経験が、今の情報誌の制作に生きているのかなと感じています。みなさんも、社会に出る前にたくさんの方に挑戦してください。その経験は、将来、必ず役に立つと思います！

仕事  
CASE  
鑑  
04

# ゼラチン・コラーゲン 素材開発のパイオニア

通販担当  
橋本 泉さん(27歳)  
ゼライス株式会社(多賀城市)

商品の魅力を伝える情報誌で  
お客様と作り手をつなぐ

「こちらのスキンケアアクリムは、『本当にお肌がツルツルになる』とお客様からもとても好評をいただいているんです」  
開発担当者へ商品の評判について話す橋本さんは、ゼライス株式会社で自社製品の通販部門を担当している。コールセンターのテレフォンオペレーターとしてお客様からの電話に対応するほか、情報誌「ゼライスだより」の編集を行っている。この日も、情報誌の取材で商品の開発担当者から話を聞いていた。

届けたり、電話やメールでいただくお客様の声を関係者にお伝えしたり。お客様と現場の橋渡しをするのが私の役割です」と橋本さんはこやかに話した。  
同社は、食品用から医療用、工業用まで幅広いニーズに応える東北唯一のゼラチン原料メーカーである。1953年の発売以来、ロングヒットを続けている家庭用ゼラチンパウダー「ゼライス」をはじめ、同社が生成に成功した超低分子コラーゲン「コラーゲン・トリペプチド」を使ったサプリメントやスキンケア商品などを製造・販売している。

東京都出身の橋本さんは、都内にある大学を卒業後、同社に就職した。「食べるのが大好きだったことから、食品メーカーに就職したいと考えていました。自社のオリジナル製品を作っていて、医療や美容分野にも展開しているこの会社に興味を持ちました」と入社後の動機について話した。  
東京営業所の営業職として配属された橋本さんは、食品関係の問屋や外食産業向けの集中調理施設などの取引先を訪問するルートセールスに汗を流した。  
入社2年目の秋に、通販担当への異動が決まり本社がある宮城県へ。3年目からは、新たに立ち上がった「ゼライスだより」の

営業職から編集長への転身  
新境地に挑む「情報誌づくり」

魅力や思いを発信し  
ものづくりを応援したい



- 1 情報誌に掲載する製品について開発担当者から話を聞く橋本泉さん
- 2 通信販売で取り扱う商品の一部。コラーゲン・トリペプチドを配合した健康食品や美容製品、ゼリーやスイーツなどに使うゼラチンなど多彩な商品がそろっている
- 3 情報誌「ゼライスだより」。年4回発行し、発送する商品と一緒にお客様のもとに届ける。橋本さんが編集長を務めている